

2018年1月15日

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086
神戸市中央区磯上通 7-1-5
www.lilly.co.jp

EL18-01

リリー社員が歩いて応援、400万円を寄付 ～これまでの寄付金が兵庫の若者のべ445人の被災地支援に～

日本イーライリリー株式会社(本社:神戸市、代表取締役社長:パトリック・ジョンソン、以下リリー)は、社員の活動に基づいて算出した寄付金400万円を、被災地復興支援に役立てていただくため、「社会福祉法人 中央共同募金会(赤い羽根共同募金)」と、「ひょうごボランティアプラザ(社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会)」へ2017年11月に寄付したことを発表します。

リリーは阪神・淡路大震災を経験した神戸三宮に本社を置く企業として、東日本大震災が発生した2011年から被災地復興支援として寄付をはじめ、現在は日本全国の被災地を対象に寄付を継続しています。この寄付金は、社員が自主的に参画できる地域への社会貢献活動である「リリージャパン・デイ・オブ・サービス※1」によるものです。

社員一人が2km歩くごとに1,000円、ゴミ拾いなど地域貢献活動を行うごとに500円として算出した金額を、会社から被災地支援に繋がる団体に寄付しています。2017年は9月8日(金)から9月29日(金)にかけて行われ、のべ3,052人の社員が参加し、歩いた総距離は8,356kmとなりました。

寄付金の一部は、ひょうごボランティアプラザが主催する「ひょうご若者被災地応援プロジェクト」で活用されており、これまでに兵庫県内の学生グループなど、のべ30団体、445人が寄付による支援をうけて、東日本大震災・熊本地震・九州北部豪雨など全国の被災地で活動を行いました。「ひょうご若者被災地応援プロジェクト」は、阪神・淡路大震災から復興した地元兵庫県の経験をその他の被災地域でも活かすこと、そして県内の若い世代が被災地での応援活動の経験を積むことで、災害発生時に活躍する人材を育成することを目的としています。



2017年12月19日に開催された「ひょうご若者被災地支援プロジェクト助成事業報告会」での集合写真。
2017年はこれまでに15団体185人が活動に参加。学生を中心とした若者がそれぞれの活動と学びを共有しました。

また、2018年1月16日(火)～17日(水)に開催される「東日本大震災 被災者招へい事業」(ひょうごボランティアプラザ主催)においても「リリージャパン・デイ・オブ・サービス」の寄付金の一部が使用されます。これは、東日本大震災の被災地の皆さんを招へいし、兵庫県のボランティアメンバーと共に、阪神・淡路大震災からの復興の現場を巡り、交流会を行うもので、2014年から継続して行っています。

日本イーライリリーについて

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの日本法人です。人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう、革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じ、がん、糖尿病、筋骨格系疾患、中枢神経系疾患、自己免疫疾患、成長障害、疼痛、などの領域で日本の医療に貢献しています。詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.lilly.co.jp>

※1【参考資料】「リリージャパン・デイ・オブ・サービス」について

米国に本社を置くイーライリリー・アンド・カンパニーでは、毎年ある一日を『リリー・グローバル・デイ・オブ・サービス』と決め、世界各国の社員が地域貢献活動を行っています。その一環として、日本イーライリリーでは「リリージャパン・デイ・オブ・サービス」として地域社会の貢献につながるイベントを数週間に渡って行っています。この活動は被災地への寄付につながるため、被災地に赴くことが難しい社員でも間接的に被災地の復旧・復興支援に携わることができ、さらに活動の内容・方法を社員の自主性に委ねることができるため、全社員がさまざまな形で被災地を支援できる仕組みとして社員の意欲向上につながっています。



リリージャパン・デイ・オブ・サービスに参加し、
ごみ拾いを行うリリー社員。



今回の寄付に対し、兵庫県知事 井戸敏三 様、
兵庫県社会福祉協議会会長 吉本知之 様
から感謝状をいただきました。